

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200446		
法人名	社会福祉法人唐津市社会福祉協議会		
事業所名	唐津市社会福祉協議会認知症対応型共同生活介護事業所おうか		
所在地	佐賀県唐津市相賀5134番地2		
自己評価作成日	平成28年12月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/41/index.php?action_kouhyou_pref_topijgyosyo_index=true
-------------	---

平成29年3月15日よりURLが変更になります。新しいURLは『www.kaigokensaku.mhlw.go.jp』です

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年2月16日	外部評価確定日	平成29年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①閑静な環境のもと、ゆったりとした時間を過ごすことが出来ます。②季節の野菜を職員と一緒に植えたり収穫したりして、それをどのように食べようか等、楽しく話しながら、皮むきを手伝ってもらったりして調理し、一緒に頂いています。③入居者様が出来るだけ元気でいられるよう、1日1回必ずテレビ体操と立ち上がり、足上げ運動を行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>唐津市の北東部、市中心部と呼子の間地点にある玄海灘近くの広い平地に建つグループホームである。事業所周围は農業施設や事業所などが多く、近くに民家が少なく環境であるため、密接な近所づきあいはできにくい。しかし、運営推進会議を通して地域とつながりを持つ姿勢がうかがえる。地区代表者数名を委員に委嘱し、地域との情報交換を重ねたり、受けた助言を実行に移すなどしてサービスの向上に活かしており、徐々にではあるが地域交流が進んでいる。ハード面の改良も進めている。建物内の壁を取り払って開口部を多くし、見通しが良くなるようにリフォームしている。これにより利用者の行動が把握しやすくなり、職員の目が行き届くようになった。また、建物外周では、避難経路にある砂利道に車イス通行可能なコンクリート舗装部分を作り、車イスでのスムーズな避難が可能になった。理念に受容の精神をうたっており、職員は優しく利用者に対し穏やかに接している。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の基本理念を作成し、毎朝職員全員で唱和を行っている。またその理念に近づくとともに何が出来るかを考え実践している。	利用者の尊厳を大切に、利用者がその人らしく落ち着いて過ごせ、自立した生活が送れるように皆で取り組むという概念を理念としている。理念は事業所開設時に管理者が考え、職員とともに作り上げたものである。管理者は職員に、受容の精神の大切さや、心から思っていないと態度に表せないと伝えており、理念の確認と実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事を見学したり、職員と入居者様とで作成した作品を展示したり、家族や民生委員を招き敬老会やクリスマス会などを開催している。	自治会には入会していないが、地域とのつながりは運営推進会議や区長を通して行われている。回覧板活用や今まで以上に事業所を知っていただくために、自治会入会も検討中である。地区に伝わる伝統の獅子舞いの訪問があり、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	限られた人数の中で可能な限り、認知症に関わる研修を受講するように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月第3木曜日に運営推進会議を開催し、入居者様の状況やヒヤリハットなどを毎回報告し、意見やアドバイスを受け、それに基づき改善を行っている。	運営推進会議は、区長や老人クラブ会長、民生委員などの地域住民や利用者家族、行政職員などの参加で2ヶ月に1度開催されている。会議はホームを知っていただけるような情報交換や意見交換がなされている。委員の提案で、消防避難訓練に消防団員の参加が決まったり、ふらつきがある利用者に歩行器使用を勧める等、出された意見や要望は検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度に対する疑問点等はその都度、市の担当者に確認を行っている。また市からの数々の調査物に対しても確実の報告しており、日頃から密に連絡・報告を行っている。	行政職員が運営推進会議の委員であることから、日頃から協力関係があり、疑問があればすぐ連絡して確認を取れる関係を築いている。行政からの協力依頼は、母体法人を通して行われている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についてのマニュアル作成し、職員全員が理解している。障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者が殺傷される事件発生後、おつか入居者様の安全・防犯対策のため、玄関は施錠している。(内側から容易に開けられる)	契約時に利用者と家族に事業所の方針を説明し、身体拘束をしない支援に努めている。職員は虐待や身体拘束についての研修を受け、言葉による拘束もないように気をつけて支援にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	採用時に権利擁護や虐待防止についての研修に参加。入浴時等、全身の観察を行っており、皮膚等に気になる異変等ある場合は、管理者やその他の職員に報告、原因を話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方はいないが、採用時に権利擁護や虐待防止についての研修に参加し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、十分に時間をかけ、一つ一つ説明を行い、理解・納得をして頂いた上で締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の関わりや、定期アセスメント時に、意見・要望を聞くようにしており、意見・要望があったときは対応できる内容については、職員に周知対応している。	管理者は、月に1度以上は家族と話して状況説明や意見を聞くことが大切だと考えている。職員は、利用者や家族と話すことを心がけ、面会の少ない家族には電話で意見や要望の把握に努めている。出された意見や要望は申し送りや日誌記入の他、職員会議に諮り運営に活かせる様に検討している。日中はなるべく起きて他の利用者と接してもらいたいという家族の要望で、リクライニング車イスを準備するなどの対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から職員とその都度花説状況を作っている。また、月1回の職員会議でも意見や要望を言える機会を設け、意見を聞いている。	管理者と職員は普段からよく話し、何でも言える関係ができています。管理者は職員の意見を聞くように心がけ、職員は気付いたことは管理者に伝えるように努めている。管理者は3ヶ月に1回程度、夜に職員との意見交換会を開催するなど、意見や提案を聞く機会を設けている。職員から出された意見や提案は検討し、業務分担や服薬支援の徹底など運営に活かせるように検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に勤務評定を行い、勤務状況を把握している。また、職員の熱意と積極性の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勤務評定を行い、介護等の力量の把握に努めている。また、限られた人数の中で、年間研修計画以外にもできる限り沢山の研修会に参加出来るようにしている。また、自社組織全体での研修会にも定期的に参加、職員間で知識を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月開催のグループホーム連絡会に参加し、勉強会や講座等を通し、ネットワーク作りに努めながら、その情報をもとに、他職員に復命し、サービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には少なくとも2時間以上の時間をかけ、じっくりと話を聞くことで、本人の不安や悩みを打ち明け易くし、施設入所が安心したものになるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には少なくとも2時間以上の時間をかけ、じっくりと話を聞くことで、家族の不安や悩みを打ち明け易くし、施設入所が安心したものになるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期には少なくとも2時間以上の時間をかけ、ご家族の本当の気持ちや、その状況等を詳しく理解することから始め、「今何に困っているか」「何が必要なのか」を一緒に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、その人の能力に合わせ、掃除や洗濯物、食器の後片付け等、出来ることを、出来る人で職員や他入居者様と一緒にやっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には最低月に1回は面会に来て本人と接する機会を作って頂けるように勧めておえい、定期的に行事を開催し、ご家族とのふれあいの場を提供している。また、可能であれば他科受診はご家族でと勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人・友人に可能な限り、面会に来て頂けるよう、その都度お願いをしている。	利用者の生活歴を大切にした支援を心がけている。昔、仕事で関わったスキルをホーム内で発揮できる環境を作ったり、昔なじみの友人宅への訪問を支援するなど、利用者一人ひとりに合った支援につなげている。お祭り見物や花見など、昔訪れた場所や見慣れた自然に触れてもらえるようにドライブにも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者様同士の関係を見て、意見も聞きながら把握し、職員間で話し、より良い関係でいられるよう、席を変更したり、職員が代弁したりして関係が悪化しないよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で利用停止になっても、病院に面会に出向き、ご本人やご家族との面接を行い、お話を伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その都度ご本人に対し、意向の確認を行っている。	利用者本人の意向を大切に、個々に応じた支援を心がけている。管理者は、日常会話の大切さを認識しており、希望や意向の有無はまず本人に尋ねるように努めている。発語の無い利用者には、表情や言葉かけで意思を引き出すように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出生時から現在に至るまでの生活歴についてアセスメントを行い、その人の生活スタイルの把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は常日頃から入居者様と関わりを持ち、個々の現状把握に努め、新たな発見や変化等あればその都度ケース記録やホーム日誌に記録、朝夕の申し送りにて報告・情報を共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より面談や電話にて、ご本人やご家族の考えや要望等を把握し、その都度職員に伝え、情報を共有している。また、評価時には職員や家族で現状を話し合い、意見等を踏まえた介護計画を立てている。	利用者や家族から要望を聞き、具体的な介護計画が立てられており、課題や長期・短期の目標、援助内容が分かりやすく書かれている。ケアチェック表には、食事・水分、排泄、入浴や整容、医療、リハビリなどに関するケアの内容や現状・問題点などが具体的にまとめられ、本人や家族の訴えや希望が明記されている。ケアプラン評価とモニタリングが3ヶ月ごとに実施され、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の要すやケアの内容等は、個別のケース記録に記録し、ホーム日誌の伝達事項に記載して、職員間の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のご本人やご家族との関わりの中で、希望・要望等が生まれた際には、できる限り意向に阿蘇Lよう柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事を見学したり、作品を展示するなど、地域との交流に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常日頃から、かかりつけ医との連携を図っており、些細な事でも報告・指示を仰ぐようにしている。ご家族への報告はもちろんのこと、治療についての意見・要望も伺うようにしている。	訪問診療で健康管理を行っている関係から、事業所の協力医への受診変更をお願いしているが、利用者や家族の意向を大切に入院前からのかかりつけ医の継続受診も支援している。通院は家族の送迎を基本としているが、職員での対応もなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はないが、日々の健康状態を管理者に伝え、管理者が医師と連携をとることにより、適切な健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医療機関への同行、診察の立ち会い時には経過等の情報提供を行い、定期的な面会を行い、現状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に当施設のターミナルケアについてご家族へ説明し、同意を得ている。また、近い将来ターミナルとなり得るケースについては、主治医、ご家族、施設と3者で面談し、終末期のあり方について話し合いを行っている。	重度化や終末期に関する指針は無いが、契約時に本人及び家族に説明が行われている。入院や重度化するなど利用者の状態に合わせて家族・主治医と話し合う体制ができており、意向確認書も用意されている。利用者・家族・主治医・事業所は方針を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成している。感染症対策についての研修会や緊急時の対応についての研修に参加し、諸君全員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回夜間想定での消火・避難訓練を実施。うち1回は消防署の協力を得て実施。消防用設備の点検も定期的に行っている。	年2回の消防避難訓練は実施しているが、原子力等の防災訓練には未だ参加していない。次回の消火・避難訓練には地域の消防団員が初めて参加予定である。管理者は、今後とも消防団員の協力が得られるようになれば、実際の夜間避難訓練につなげたいと考えている。職員はAEDや消火器の訓練も受けており、使用することができる。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念にも利用者様の尊厳を上げており、職員全員が念頭にいれ、ケアにあたっており、常にプライバシーの保護や優しい言葉かけを心がけている。	職員は、利用者本人の人格を尊重した言葉かけや口調に注意し、年長者として敬意を払った対応を心がけている。理念にもあり、受容の大切さを認識して支援にあっている。個人が特定できる写真は慎重に取り扱われ、掲載に同意した利用者のみとなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定を促す言葉かけを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人やご家族の希望は可能な限り対応するようにしている。生活習慣や身体状況に配慮しながら、ご本人やご家族の思いを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあっているか、汚れや乱れはないか、爪、また、男性では髭が伸びていないか等、気をつけている。2ヶ月に1回ご家族の協力により散髪に来て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼食と夕食は地域で人気のレストランに委託している。品数が多く、旬の食材を使った食事で、入居者様にも好評である。毎日の朝食や祝祭日には入居者様から食べたい料理を聞き提供したり、後片付けは一緒に行っている。	朝食以外の日々の食事は外部に委託しているため、利用者の希望を取り入れるのが難しいが、日曜日や祝日には利用者の意見や要望を聞きながら柔軟に決められている。菜園で育てている芋やトマト・キュウリなどの季節の野菜は、収穫の楽しみと季節感を食す楽しみも加わっている。誕生日のケーキは、利用者と家族も一緒になって皆で手作りしており、利用者の楽しみにもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック票に摂取量を記録。個々の体重を定期的に観察し、適宜増減。また心臓病や高血圧の圧方への塩分・水分の管理や嚥下機能低下のある方への食事の工夫等、個々に合わせた対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じ、毎食後口腔ケアを行っている。義歯の不具合や痛み等ある場合は、協力歯科医に訪問診療をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンの把握を行っている。また、尿意の訴えがない方にも、時間おきにトイレ誘導し、排泄を試みている。	管理者は、おむつを使用することで起きる弊害を理解しており、利用者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。声掛けや誘導でトイレで排泄できるように支援しながら、パッドや紙パンツなど本人の必要に合わせて支援している。夜間だけポータブルトイレを利用している利用者もあり、現在約半数の人が自立である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体状況に配慮しながら、日頃より、運動や水分摂取を促しているが、それでも便秘になる場合は主治医に相談し緩下剤の処方を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	家庭的な浴室・浴槽で、マンツーマンによる介助にて入浴して頂いている。現実的に夜間の入浴は困難であるが、出来るだけ近づけるよう、午後に入浴時間を設けている。	入浴は週3回が基本であるが、毎日でも希望があればできる限り支援するように心がけている。入浴を嫌がられる場合は無理強いせず、順番を変えたり翌日にしたり、その人に合った対応で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人やご家族の希望や健康上休息が必要な場合、いつでも安静臥床ができるよう対応している。少しでも安心して頂くために、枕や布団は出来るだけ使い慣れた物を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容はファイリングして、いつでも確認ができるようにしている。追加や変更等があった場合は、処方内容や注意事項など、その都度ホーム誌にて職員間周知を図り、その後の経過観察を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなこと、やりたいことを見つけ、草むしりや掃除、洗濯物干し・たたみ、茶碗洗い等、出来ることは職員と一緒にやり、少しでも充実した生活となるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば可能な限り職員が付添い外出出来るようにしている。毎週日曜日をドライブの日と決め、入居者の希望を聞きながら、転記の良い日にはドライブしている。	管理者は、気分転換や外気にふれたり光を浴びることなどの大切さを理解しており、外出の機会を多く設けている。週1回のドライブは行事に組み込まれ、呼子大橋や鏡山など利用者の要望に沿って柔軟に行き先が決められている。天気の良い日はホーム周りを散歩したり、飲み物やお菓子持参で花見に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員が金銭管理困難な方であり、すべてご家族が管理されている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了解のもと、希望時にはいつでも電話をかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、リビング等の教養の空間は常に清潔が保てるよう、こまめな清掃を行い、障害となる物は置かず、季節の花を飾ったり、温度や湿度にも気をつけている。	ホーム内は淡い色調に統一され、広く明るくゆったり落ち着いた雰囲気である。利用者は居間で自由にのんびり寛いでいる。次亜塩素酸消毒液で雑菌の繁殖を防ぎ、換気扇や加湿器・エアコンで温度や湿度の管理をしている。昨年、居間に隣接する部屋の壁を取り払い、居間を広げる等の改造を行っており、より広く、より明るい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間にはテレビやソファがあり、ソファに座ってテレビを見る人や、自室で休みたい場合は自由に休まれる等、それぞれが自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来るだけ使い慣れた馴染みのあるタンスや布団等持ってきて頂くようお願いしている。	入居契約時に、自宅で使い慣れた布団と枕の持参を勧めている。タンスや仏壇、写真・手芸品・テレビなどで、居心地よく過ごせる居室づくりが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日頃の関わりの中で、個々の出来ることを見つけ出し、出来ることがあれば職員が付添い見守りながら、安全を確保して行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない